

## 第1学年A組 国語科授業案

平成27年9月28日(月) 5校時 場所 1 A 教室  
授業者 小柳津清千

### 1 単元

物語は鏡(文化を見つめる)

### 2 単元の構想

「山椒魚」(井伏鱒二)は、作者の初めて発表した小説である。一部に文語調の言い回しが使われているものの、登場する山椒魚や蛙が擬人化され、台詞も平易な言葉で書かれており、場面も岩屋の中だけという、わかりやすい小説である。1929年(昭和4年)の作でありながら、その内容は、全く古さを感じさせない。作中で山椒魚と蛙が激しく口げんかをするが、あたかも人間の子どもがけんかをしているようにさえ感じさせる。また、親しみやすい小説であるが、それだけにさまざまなことを考えさせられる題材である。

本学級の子どもは、普段の国語の授業で、活発に発言があり、多くの子どもが自分の考えをみんなに聞いてもらいたいと考えている。未知のことに挑戦しようとする意欲も旺盛で、さまざまな方法で問題を解決していこうという力強さがある。その反面、発言したことだけで満足してしまったり、指名されず発言できなかったとき、急に意欲を失ってしまったりする姿も見られる。仲間の考えを聞き、文章を読み返しなが、更に自分の考えを深めようとする粘り強さを育てていきたい。

本単元では、共通の問題について追究し、仲間と話し合うことで、新たな考えを見つけ出す楽しさを体験し、仲間と語り合う楽しさを実感させたい。最後にある蛙の「今でもべつにお前のことをおこってはいないんだ」という言葉から、子どもは本当に蛙が怒っていないのかと強い疑問を抱くであろう。物語の随所にその手がかりとなる言葉がちりばめられており、子どもは何度も文章を読み返し、一つ一つの言葉から問題の本質に迫っていく。また、この題材は、作者の生涯について調べることで、見えてくる部分も多い。作者の経歴と、作品中のできごとが象徴していることを比較して考えることで小説の読み方や楽しみ方を身につけていくことができる。作品の発表後、何度もこの小説を作者自身が書き直しをしているという事実から、表現者としての生き方についても考えられるようにしていきたい。

### 3 単元の目標

- (1) 作品を何度も読み返して、問題について追究しようとすることができる。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 追究から得た考えを短くわかりやすく説明することができる。(話すこと・聞くこと)
- (3) 授業日記や単元まとめに、自分の考えを客観的な理由とともに書き表すことができる。  
(書くこと)
- (4) 文章中の言葉から、山椒魚や蛙の言動の理由を見つけることができる。(読むこと)
- (5) 物語で使われている言葉を、コロップとコルクなどのように現代の言葉と比べて正しく理解することができる。(言語事項)

### 4 授業計画(5時間完了)

- (1) 「山椒魚」を読んで感想交流を行い、最後にある蛙の言葉に着目する(1時間)
- (2) 蛙の言葉の理由について個人で追究を行う(2時間)
- (3) 蛙の言葉の理由について意見交流を行う(1時間)
- (4) 自分の考えを単元まとめとして文章で書き表す(1時間)



5 本時の授業 (4 / 5 時間)

(1) 目標

- ・蛙の言葉の理由について、自分の考えと仲間の考えを比較して考えることができる。  
(関心・意欲・態度)
- ・仲間の考えの根拠が客観的であるかどうか、テキストの文章を何度も読み返しながら考えることができる。(読むこと)

(2) 準備

前時の授業日記を示した掲示物、作者の拡大写真

(3) 過程

学 習 活 動	教 師 の 支 援
なぜ蛙は「おこっちはいないんだ」と言ったのだろうか	
<p>【蛙の言葉の理由を考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間という長い時間が、大きく関係していると思われる。(I A n)</li> <li>・山椒魚に対して同情しているから。(O K k)</li> <li>・お互いに困っていることを知っていたので、同情しているのだ。(T S r)</li> <li>・「あああ」の声を当然聞いており、山椒魚が後悔をしていることを感じたから。(F K)</li> <li>・山椒魚の「そんな返辞をするな」には、怒りを感じないだけでなく優しさがある。(Y M)</li> <li>・作品が書かれた時代は、戦争が頻繁にあって、その影響を受けている。(U K)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語中の言葉から考えることができるように、必ず根拠となった部分を確認する。</li> <li>○蛙のみについて考えた意見、両者を考えた意見、山椒魚の内面について考えた意見を比較して考えることができるように、それぞれを分けて板書する。</li> <li>○自分と仲間の考えを比較しながら考えることができるように、掲示物にある授業日記の記述を見直すよう指示する。</li> </ul>
作者はこの物語でどのようなことを伝えたかったのだろうか	
<p>【物語にこめられた主題について考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争をしても、お互いを本当に憎んで戦っているのではないと言いたい。(H S)</li> <li>・自分たちのするけんかでも、同じような場面が何度もあった。(M S)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語の主題について考えることができるように作者の生涯や物語の書かれた時代背景に着目した意見を赤色で囲んで強調し、作者の拡大写真を黒板に示す。</li> </ul>
「山椒魚」には作者の言いたいことが隠されているのではないか	
<p>【本時を振り返って授業日記を書く】</p>	

(4) 評価

- ・自分と仲間の考えを比較して、蛙の言葉の理由について考えることができたか。  
(発言・授業日記)
- ・仲間の考えの根拠が客観的であるかどうかを、テキストの文章を何度も読み返しながら考えることができたか。(授業中の様子・授業日記)



黒 板

<p style="text-align: center;">E M</p> <p>蛙は自分の命をもうあきらめている。今さら、山椒魚のことを怒っても仕方がないと思うのだと思う</p>	<p style="text-align: center;">O T m</p> <p>「今でも」と言っているのに、2年前岩屋に入れられたときから、最初から山椒魚をかわいそうだと思っていた</p>	<p style="text-align: center;">U K</p> <p>1929年は、日中戦争や五・一五事件があり、この物語も戦争の影響を受けているが、ユーモラスに書いている</p>	<p style="text-align: center;">F K</p> <p>「あああ」の声は、山椒魚をうらやましがらせてしまった後悔が蛙にあると考える。だから蛙は怒っていない</p>	<p style="text-align: center;">&lt;座席表について&gt;</p> <p>なぜ蛙は「おこっちはいなんだ」と言ったのだろうか</p>	
<p style="text-align: center;">H M</p> <p>「おこっちはいなかった」と言ったら相手に失礼だと考えたから「おこっちはいなんだ」という言葉になった</p>	<p style="text-align: center;">A Y</p> <p>蛙についてはわからないが、山椒魚は怒りによって蛙を閉じ込めた。自分の周りにも同じような人がいる</p>	<p style="text-align: center;">N Y m</p> <p>蛙が山椒魚を許したことで、初めて和解が成立した。しかし、それでは蛙の言葉の理由がわからない</p>	<p style="text-align: center;">S R</p> <p>蛙から山椒魚を長い間見て、岩屋から出られないのをかわいそうだなと思っていたからだと思う</p>	<p style="text-align: center;">T S r</p> <p>蛙も山椒魚も、互いが困っていることを知っていたから、蛙は「おこっちはいない」と言ったのだと思う</p>	<p style="text-align: center;">M T</p> <p>文章には、蛙が最初から起こっているような口調で書かれている。それを反省して言ったのだと思う</p>
<p style="text-align: center;">I A n</p> <p>2年間という長い期間、ともに過ごしたことが大きく関係している。ネットの意見はあまり参考にならない</p>	<p style="text-align: center;">S S</p> <p>けんかするときには激しいけれど、長い間静かに暮らしていた時間もあり、そのために心が鎮まったから</p>	<p style="text-align: center;">K N</p> <p>「友情」という言葉から、山椒魚から見ても蛙のことを友だちだと思っていた節がうかがえるから</p>	<p style="text-align: center;">N M</p> <p>最初は怒っていたけれど、長い間一緒にいることによって、自分も悪いことに気づいたからではないか</p>	<p style="text-align: center;">T R</p> <p>蛙は、隙をみて逃げることもできたかもしれない。蛙は優しい気持ちで死を迎えたのではないだろうか</p>	<p style="text-align: center;">N R</p> <p>怒りについて調べてみて、蛙の性格をよく考えてみた。器の大きな蛙なので、山椒魚を許していた</p>
<p style="text-align: center;">Y N</p> <p>穴から出られない山椒魚に同情していると考えられる。山椒魚は生命力が強い生き物だとわかった</p>	<p style="text-align: center;">Y D</p> <p>山椒魚が蛙を閉じ込めたときから長い年月が経っていて、ずっと一緒にいたから、実は怒っていなかった</p>	<p style="text-align: center;">N A</p> <p>「友情を瞳に」から、両者には友情があった。「お前は莫迦だ」と言い合ったことさえも楽しかったのではないか</p>	<p style="text-align: center;">K S</p> <p>「親友」という言葉があり、だから怒らなかった。逆に「親友」ならば怒ってもよいはずなのでよくわからない</p>	<p style="text-align: center;">T M e</p> <p>山椒魚は優しい。山椒魚の最後の言葉は、蛙を許しているからこそ出てくる言葉ではないだろうか</p>	<p style="text-align: center;">I S</p> <p>空腹になった蛙は、動けずに山椒魚と同じ寂しい気持ちになったことで、山椒魚に同情しているから</p>
<p style="text-align: center;">A R</p> <p>「大きな息をしたろう？」は、山椒魚が蛙の生存を確かめている。我慢比べをしているのではにか</p>	<p style="text-align: center;">O K k</p> <p>蛙が山椒魚をずっと見ていて、同情したのではないか。岩屋から出られない理由もよく見て理解している</p>	<p style="text-align: center;">N Y k</p> <p>2年間という長い間に、蛙は反省しており、意外にもその時間を楽しんでいたのではないかと考える</p>	<p style="text-align: center;">O K h</p> <p>「今でもべつにお前のことを」から、最後の場面より前にすでに両者は和解していたと考えられるから</p>	<p style="text-align: center;">I A r</p> <p>口論を夏いっぱい続けてしまったことを後悔していた。「遠慮がち」に言っていることからわかる</p>	<p style="text-align: center;">H S</p> <p>自分も山椒魚と同じ立場になってみて、どれだけ辛いのが身にしみてわかったから、怒りたいなかった</p>
<p style="text-align: center;">N K</p> <p>けんかはしていたけれど、長い間一緒にいたから、その間に友情が芽生えた。友だちがほしかったのではないか</p>	<p style="text-align: center;">Y H</p> <p>2年間、狭い岩屋の中で一緒に暮らして何もないわけがない。だから「今でも」と言っている</p>	<p style="text-align: center;">T M r</p> <p>難しい言葉などを調べ、場面の様子は理解できた。書評サイトには、最後の言葉について書いたものはなかった</p>	<p style="text-align: center;">Y A</p> <p>蛙には天敵が多いが、山椒魚は蛙を食わずにいたから、まあいいだろう、と考えたのではないかと思う</p>	<p style="text-align: center;">Y M</p> <p>山椒魚の「そんな返辞をするな」の言葉から、蛙は山椒魚が怒っていないことを悟ったので、あのように言った</p>	<p style="text-align: center;">I M</p> <p>蛙なりのお詫びのつもりで言った。お互いに嘆息を我慢して、蛙は山椒魚の嘆息を察知していたから</p>
<p style="text-align: center;">M S</p> <p>この作品が書かれた時代には戦争が頻繁にあった。作者は広島出身で、戦争のことを意識して書いているのではないか</p>	<p style="text-align: center;">T K t</p> <p>空腹で動けないという部分から、お互いに死んでしまうのではないかと考えていたからだと思う</p>	<p style="text-align: center;">F N</p> <p>蛙と山椒魚は対立から和解へと気持ちが変わっている。山椒魚は蛙が許したから初めて理解をすることができた</p>	<p style="text-align: center;">I Y</p> <p>以前、山椒魚が自分をうらやましうに見ていたのを知っていたので、山椒魚がなぜ閉じ込めたのかがわかってきたから</p>	<p style="text-align: center;">S H</p> <p>「嘲笑」「悪党」という言葉から山椒魚の性質がわかる。山椒魚はそんな自分を反省していて、それが伝わったから</p>	<p style="text-align: center;">Y R</p> <p>「一年の月日」は長く、「大きな息をしたろう？」には優しさすら感じさせているから、仲直りしていると考えられる</p>